2023年6月17日

千代鈴7連勝

紙相撲新聞
第159回本場所
四日目～七日目号
編集・発行
日本紙相撲協会

若ノ嶋、4連敗で春翔に続き休場
大神楽も3敗、千代鈴独走状態に

【第百五十九回本場所四日目～七日目】

6月11日に四日目と五日目、6月17日に中日と七日目と、2週連続で本場所が開催され、七日目を終って、横綱千代鈴がただ一人7戦全勝で優勝争いの単独トップに、これを1敗で平幕の鬼ヶ嶽、西神門、剣将の3人が追う展開となった。

先場所、横綱大関による激戦を制して優勝した横綱若ノ嶋が四日目に綱乃花に、五日目に出羽翼に敗れて、二日目から4連敗となって中日から休場することになった。

初日から3連敗の横綱春ノ翔が四日目からの休場に続き、先場所10勝1敗同士の決定戦で優勝を争った両横綱がまさかの途中休場と残念な前半戦となった。

一方、横綱千代鈴の五日目の対戦相手は若ノ嶋、大神楽に勝っている綱乃花との対戦で注目されたが、ここまでの相撲と違って右からの押し倒しで格の違いを見せつけた。まったく危なげのない横綱相撲で5連勝とした横綱千代鈴は中日に白閃光七日目に四季嶋に勝って白星を積み重ね7戦全勝とした。

↑七日目、二敗の小結月山の挑戦を受けた千代鈴。春翔、若嶋を連破して好調の四季嶋を全く寄せ付けず7連勝。安定した取り口で孤軍奮闘、横綱としての初優勝に向けて不安は見当たらない。

↓四日目、若ノ嶋は気鋭の綱乃花に完敗。五日目も出羽翼に敗れ、休場に追い込まれた。

全勝　千代鈴
一敗　鬼ヶ嶽、西神門、剣　将
二敗　鉄　甲、喜乃郷、雪若丸
若　柱

七日目の取組み前に朝日松理事長が「ひょっとしたら四季嶋に勝機があるかもしれない」と何を根拠にしての発言かはわからないが対戦予想を口にした。注目の一番は、千代鈴が落ち着いた相撲で立合いに前に出ず、受け腰で相手の様子を窺ってから攻勢に出る巧みな相撲を見せた。

「今場所の千代に死角なし！」と誰しもが感じた一番だった。若ノ嶋、春ノ翔の2人の横綱の休場で一人横綱としての責任がのし掛かるが、目指すは横綱としての初優勝、そして初の全勝優勝だ。

大関大神楽は初日からの連敗で「大神楽までもか？」と磯ノ海親方をやきもきさせたが、四季嶋、月山、朱雀湖、出羽翼の勝間田勢に勝って二日目から4連勝として星を戻してきた。

「このまま白星を積み重ねていって、もし千代が誰かに負ければ、千秋楽の直接対決で優勝の可能性も出てきて面白くなるね！」と錦風親方。そうした期待の声があった矢先の七日目、好調の鬼ヶ嶽相手に左を差しながらも体勢が低く引き落とされて痛い3敗目を喫した。

大神楽●（引き落し）○鬼ヶ嶽

順調に出世して前頭筆頭まで番付を上げた鉄甲。勝ち越せば新三役という今場所は五日目まで千代鈴に負けた1敗のみ。中日も過去押し倒しで負けている佐賀ノ海との対戦だったが、相撲は佐賀得意ののど輪に入り万事休すかと思われた中、そこから逆に押していき佐賀を押し出しに破った。

七日目に勝ち越しをかけたが、綱乃花の圧力の前に屈し七日目での勝ち越しはならなかった。

三役ではなかなか勝ち越しを続けることができずにいる出羽翼。自力はあるだけに平幕に落ちれば大勝ちもありうる。五日目には若ノ嶋を堂々と寄り切って金星をあげて優勝争いに絡むかと期待されたが、中日に大神楽、七日目に西神門に敗れ、3敗目を喫した。

先場所は関脇で3勝8敗と振るわなかった元大関の鬼ヶ嶽だが、さすがにここの位置では強い。五日目に四季嶋に敗れたものの中日は5連勝と勢いに乗る西神門に対して左を差す体勢となって寄り切り土をつけた。続く大神楽戦では粘りの相撲をみせて引き落としで破って勝ち越しを決め存在感を誇示した。

「今場所は、千代鈴と西神門の春日根部屋同士の優勝争いになるような気がする。」と中日の取組み前に朝日松理事長が今場所の展開を予想。

五日目を終えて春日根部屋のこの2人が全勝で引っ張る形となっている。西神門は前頭八枚目で三役以上と当たる位置ではないが、今後勝ち込むようだと

鉄　甲○（寄り切り）●佐賀海

若ノ嶋●（寄り切り）○出羽翼

鬼ヶ嶽○（寄り切り）●西神門

出羽翼●（寄り切り）○西神門